

経済学研究科

理論経済学専攻
(前期課程)

応用経済学専攻
(前期課程)

経済政策専攻
(後期課程)



専門知識と分析力、応用力を備えた
経世済民に貢献し得る人物を育てる。

経済学研究科とは

同志社大学大学院経済学研究科は、同志社における教育理念である“キリスト教主義”“自由主義”“国際主義”の下、最新の学問と、歴史の中で培われてきた伝統と文化をバックボーンに、現代社会に求められる能力を養成するインキュベータとしての社会的機能を担っています。ここでいう能力とは、新しい学術的発見を生み出す力、新しいビジネスモデルを提案する力、新しい社会システムを提唱する力、新しい政策プログラムを構築する力であり、これらのクリエイティブな能力こそが、21世紀の国際競争力の源泉となり、グローバル経済を支える力となります。グローバル化が進む社会において、専門的能力だけでなく、経済・社会環境の変化に対して的確に対応できる能力、語学力を含めた国際感覚を有したグローバルist&スペシャリストの重要性はますます高まっています。本経済学研究科は、研究者の養成はもちろん、計量分析能力、数理分析能力、歴史分析能力、政策分析能力、文化マネジメント能力、環境マネジメント能力を有し、社会の中で政策立案者や専門職業人などにもなり得る人物を養成します。

前期課程の理論経済学専攻と応用経済学専攻に特色ある4つのコースを開設

理論経済学専攻

理論分析コース

経済社会のメカニズムを探る「理論経済学」、それを国際経済に適用する「国際経済学」、現実経済から将来を予測する手法を研究する「計量経済学」など経済学の根幹的な教育・研究を行います。

政治経済学・経済史コース

社会を「時間」と「空間」の軸で捉え、政治経済学的手法を使って、制度(慣習)、文化、歴史の分析を含め、日本、アジア、ヨーロッパ、アメリカなどをカバーした教育・研究を行います。

応用経済学専攻

アブライド・エコノミクスコース

日本経済を切り拓くためには、理論的基盤に立った経済システムの理解と政策立案・遂行能力を持つ専門家の育成が必要と考え、公共経済や金融、経済政策などの応用分野の教育・研究を行います。

クリエイティブ・エコノミーコース

「家族」「文化」「環境」を柱に人間が継続的に安定した生活を送る上で必要な理論の再構築とその実践を目標に、社会保障論や文化経済学、資源環境経済学などの経済学的手法を基礎とした教育・研究を行います。



アドミッション・ポリシー



詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学研究科

文化情報学研究科

理工学研究科

生命医科学研究科

スポーツ健康科学研究科

心理学研究科

グローバル・スタディズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

理論経済学専攻

理論分析コース

荒渡 良 准教授

- ①マクロ経済学
- ②財政政策や金融政策に関するマクロ経済理論分析
- ③ On the Nonlinear Relationship between Inflation and Growth: A Theoretical Exposition, Journal of Monetary Economics, 2018, 94, 79-93.

本領 崇一 准教授

- ①情報の政治学/情報の経済学
- ②不完備情報のゲーム理論、あるいはメカニズムデザインの理論に基づいて、政治・経済問題における、情報の発信/隠匿に関する諸問題を分析する
- ③① Idiosyncratic Information and Vague Communication, American Political Science Review, 2021, 115(1), 165-178. ② Dynamic Persuasion, Journal of Economic Theory, 2018, 178, 36-58.

茂見 岳志 教授

- ①一般均衡理論/メカニズムデザイン
- ②不完備市場が引き起こす一般均衡理論の諸問題の分析/多数の消費者が存在する交換経済における財配分メカニズムの分析
- ③ Locally efficient and strategy-proof allocation mechanisms in exchange economies, Review of Economic Design, 2022

落合 仁司 教授

- ①美と芸術の経済学
- ②美の享楽と芸術表現への数理的アプローチ
- ③『美学の数理—美の消費と芸術の生産—』晃洋書房, 2022

田中 靖人 教授

- ①市場、企業、消費者を対象とした純粋および応用ミクロ経済学
- ②寡占理論、ゲーム理論とその応用、貿易政策の理論
- ③『ゲーム理論と寡占』中央大学出版部, 2001

岩澤 政宗 准教授

- ①統計学・計量経済学
- ②統計学・計量経済学の理論研究とその応用
- ③① 共著 Tying Maximum Likelihood Estimation for Dependent Data, Electronic Journal, 2022 ② 共著 Optimal Minimax Rates of Specification Testing with Data-driven Bandwidth, KIER Discussion Paper Series, 2021, 1053.

政治経済学・経済史コース

福岡 正章 教授

- ①近現代東アジアの工業化史
- ②日系商社の投融資活動と東アジア工業化の歴史的展開に関する研究、植民地期における朝鮮半島の工業化史に関する研究、解放から1960年代にかけての韓国繊維産業に関する研究、植民地における日本帝国の戦時動員に関する研究
- ③「朝鮮における繊維製品取引の一特徴—繊維専門商社と卸売商を中心に」『歴史と経済』2019, (243), 44-59.

西岡 幹雄 教授

- ①英米日における比較経済社会とその経済思想
- ②直面するリスクを克服して、政治・経済・文化・社会を安定的に発展させるための枠組みの革新と伝統について、英米・西ヨーロッパおよび日本における比較経済とその経済思想からアプローチする。とくに企業家・産業・都市などのテーマに関心を寄せている。
- ③ Ideas and Economy in Japan: Innovation and Tradition, 有斐閣, 2022

大野 隆 教授

- ①政治経済学
- ②資本主義経済システムの特徴の一つである資本家と労働者の労使コンフリクトが、マクロ経済に与える影響を多面的に考察。
- ③ Models of competition between firms: Endogenous market structure in the Kaleckian model, Metroeconomica, 2013, 64(1), 103-124.

小野塚 佳光 教授

- ①国際秩序の歴史的変容
- ②通貨危機や移民問題に見る各地の政策論争とそれが意味する政治経済秩序の歴史的変容、特に、国際通貨システムの改革論
- ③①『プレグジット×トランプの時代—金融危機と民主主義の溶解』朝倉書房, 2020 ②『国際通貨体制における危機：政治的視点』『経済学論叢』2003, 54(4), 822-845.

菅 一城 教授

- ①近現代イギリス社会経済史・都市史
- ②19世紀南ウェールズの製鉄業、19世紀～20世紀南ウェールズの都市開発、20世紀後半イングランドのニュータウン開発
- ③ The nature of decision-making in the post-war New Towns policy: the case of Basildon, c.1945-70, 20th Century British History, 2005, 16(2), 146-169.

谷村 智輝 教授

- ①現代資本主義論、政治経済学
- ②企業利潤率の長期的変動に関する研究による現代資本主義の構造変化と長期停滞論、政治経済学にもとづく資本の再生産過程と恐慌の理論研究
- ③ 共著「再生産と恐慌論」『恐慌論の論点と分析』創風社, 2014

角井 正幸 教授

- ①アメリカ合衆国における農業部門の史的展開に関する実証分析
- ②19世紀のアメリカ合衆国における農業および農村の発展、計量経済史(クリオメトリクス)
- ③「開拓期西部農村における農家世帯の存続と世帯規模—アイオワ州ビレッジ村の事例—」『経済学論叢』2020, 71(4) 261-279.

山森 亮 教授

- ①社会政策、経済哲学、連帯経済
- ②経済理論における必要概念の再検討、女性解放運動の経済思想と社会政策など
- ③ The concept of need in Adam Smith, Cambridge Journal of Economics, 2017, 41(2), 327-347.

横井 和彦 教授

- ①経済のグローバル化と中国経済
- ②新型コロナウイルス感染症のパンデミックとそれに伴う景気低迷、米中関係悪化等から、これまで中国に進出した多くの国の企業が生産体制の見直しを迫られ、各国政府もそれを後押ししている。世界経済の構図の変化を中国経済のグローバル化を焦点に検討する。
- ③ 編者「米中貿易『戦争』の本質：中国経済の『グローバル化』」『現代中国の経済と社会』中央経済社, 2022

応用経済学専攻

アプライド・エコノミクスコース

東 良彰 教授

- ①生産、分配、貯蓄および資本蓄積に関する研究
- ②日本のマクロ経済を主な研究の対象として、民間の貯蓄過剰を解消するために必要な政策や自然利子率の低下要因について考察している。
- ③「日本の長期停滞に関する考察—人口動態の影響を中心に—」『経済学論叢』2018, 69(4), 197-234.

北川 雅章 教授

- ①日本経済とマクロ経済学の理論的・計量的研究—金融政策の効果波及経路を中心に—
- ②金融政策の有効性と限界に関して、効果波及経路や範囲・程度を研究
- ③「ゼロ金利政策、量的金融緩和政策と名目GDP目標政策、物価水準目標政策—シミュレーション分析による評価—」『龍谷大学経済学論集』2005, 45(2), 77-97.

北坂 真一 教授

- ①日本経済論、マクロ経済学、計量経済学
- ②日本経済について、主にマクロ経済学の視点から実証分析を行う
- ③「アベノミクスと金融政策：2012年秋から2018年夏まで」『アベノミクスの成否』勁草書房, 2019

小林 千春 教授

- ①ネットワーク産業に関する経済分析
- ②電気事業、水道事業などのネットワーク産業に関する実証分析
- ③ Productivity Growth in the Electric Power Industry: A Comparative Study of Japan, the United States, and Korea, Public Finance and Management, 2005, 5(3), 421-438.

小藤 弘樹 教授

- ①地域・都市経済研究
- ②経済活動の空間的分布を軸に据えた、地域と都市が抱える経済に関する諸問題についての研究
- ③『社会的共通資本と経済活動の集積』同志社大学経済学会, 2002

久保 徳次郎 教授

- ①金融派生商品のプライシングのための数値計算法の研究
- ②確率的ボラティリティ・モデルを使って、先物やオプションなどのデリバティブの理論値を数値計算するためのプログラムの研究
- ③「ダブルHestonモデルのパラメータ推定と微分進化アルゴリズム-C#によるプログラム」『経済学論叢』2022, 73(4), 577-635.

宮本 大 教授

- ①労働経済、人的資源管理、数量データによる実証分析
- ②労働経済学やHRMの分析枠組みを利用して日本企業の人材マネジメント、とりわけ能力開発に焦点をあて、その効果を明らかにする研究
- ③共著『グローバル研究開発人材の育成とマネジメント』中央経済社、2019

新関 三希代 教授

- ①金融市場の事象についての実証分析
- ②金融市場において確認されているアノマリー等を実際のデータを用いて実証分析し、経済理論(ファイナンス理論や行動ファイナンス理論)を用いて説明する研究
- ③共著『マクロ経済学の視点(第3版)』八千代出版、2022

鹿野 嘉昭 教授

- ①日本経済と金融
- ②主として金融面での動きを中心として日本経済の特色や政策課題について分析する
- ③『日本の金融制度(第3版)』東洋経済新報社、2013

竹廣 良司 教授

- ①企業の組織と行動に関する分析
- ②企業の組織や戦略的行動、企業間関係、およびそれらの相互関係についての企業データを用いた計量分析
- ③共著 Total Labor Cost and Employment Adjustment Behavior of Large Japanese Firms, The University of Chicago Press, 2003, 135-155

和田 美憲 准教授

- ①宗教経済学
- ②宗教教団の経営や戦略および信者の信仰行動や心理に関する理論的・実証的研究
- ③The Macro-Economic Influences on a New Religious Group in Japan, Journal of Economics, Management and Religion, 2021, 2(2), 1-18.

原田 禎夫 准教授

- ①地域社会と市民参加に関する政策的な研究
- ②環境保全や公共交通の維持など、地域社会を支える市民参加のあり方に関する研究
- ③①「プラスチック汚染にどう立ち向かうのかー社会的営業免許(SLO)の可能性をさぐる」『環境経済・政策研究』2020, 13(1), 12-26. ②共編著『京の筏: コモンズとしての保津川』ナカニシヤ出版、2016

クリエイティブ・エコノミーコース

船橋 恒裕 教授

- ①少子高齢社会における経済と福祉問題
- ②我が国における社会の少子高齢化に伴う経済的、社会福祉学的問題についての研究および欧米諸国等との比較分析
- ③「介護費用支出の地域特性の分析」『経済学論叢』2009, 61(2), 249-273.

石田 葉月 教授

- ①資源・エネルギー経済学
- ②エネルギー及び天然資源と経済活動との関わりについての進化論的研究
- ③①『エネルギーと経済、そして人間』大学教育出版、2017 ②The Effect of ICT Development on Economic Growth and Energy Consumption in Japan, Telematics and Informatics, 2015, 32(1), 79-88.

河島 伸子 教授

- ①文化経済学、文化政策論
- ②芸術文化、商業的文化を支える経済基盤と政策のあり方
- ③①『コンテンツ産業論(第二版)』ミネルヴァ書房、2020 ②『新時代のミュージアム』ミネルヴァ書房、2020 ③共編著 Asian Cultural Flows, Springer, 2018

三俣 学 教授

- ①エコロジー経済学、コモンズ論、環境ガバナンス論、自然アクセス制
- ②コモンズ論の視点から、森・川・海の地域共同の利用や管理の仕組みをどう構築しうるか
- ③①共著『森の経済学ー森が森らしく、人が人らしくある経済』日本評論社、2022 ②「自然とのかかわりをどのように取り戻せるかー現代日本社会への自然アクセス制の示唆」『日経研月報』2022, 533, 32-37.

宮崎 耕 教授

- ①情報システムの研究
- ②応用情報学、情報システムの応用、情報通信技術による教育の高度化に関する研究
- ③①「マルチスクリーンを活用した高効率で効果的なアクティブラーニングの実践」『大学ICT推進協議会論文集』2013, 94-97. ②「激甚災害被災地における情報環境」『日本情報経営学会誌』1995, 16(2), 122-125.

宮澤 和俊 教授

- ①人口経済学、公共経済学、家族の経済学
- ②少子高齢化のマクロ経済効果を分析する。社会保障制度が経済成長や所得分配にどのような影響を与えるのかを分析する。
- ③①Elderly Empowerment, Fertility, and Public Pensions, ITPF, 2021 ②Capital Market Integration and Fiscal Sustainability, EER, 2019

太下 義之 教授

- ①文化政策全般
- ②アーツカウンシル(文化支援の専門組織)、表現の自由と検閲、超高齢社会とアート、食文化、ミュージアムの経営、オリンピックの文化プログラム等
- ③①分担執筆「デジタルアーカイブはどのようにしてアートの振興に貢献するか?」『デジタルアーカイブ・ベーシックス 4 アートシーンを支える』勉強出版、2020 ②『アーツカウンシル アームズ・レンガスの現実を超えて』水曜社、2017

和田 喜彦 教授

- ①エコロジー経済学、エコロジカル・フットプリント指標、鉱山・核開発等による公害と良心学
- ②「持続可能な開発」へのエコロジー経済学からの批判的検討、エコロジカル・フットプリント計算による生態学的観点からの持続可能性評価、鉱物資源・核開発、その他の公害の社会環境影響を良心学や建学の精神の観点から考察する。
- ③分担執筆「アメリカ合衆国のウラン鉱山・製錬所の社会環境影響: ナバホ先住民(ディネ)居留地の過去の負の遺産を中心に」『核開発時代の遺産: 未来責任を問う』昭和堂、2017

八木 匡 教授

- ①知識創造のメカニズムを中心とした創造経済の解明と創造性向上のための政策研究
- ②創造性は、単に経済競争力の源泉のみではなく、様々なチャネルを通じて、幸福感の向上に寄与している。どのような知識創造のメカニズムが、どのように経済成長と幸福感の向上に影響するかを解明する。
- ③共著 Polyphony as a System for Delivering Co-Creation and the Empowerment of Individuals, The Kyoto Post-COVID Manifesto for Global Economics-Confronting our shattered society, Springer, 2022

四谷 晃一 教授

- ①経済成長理論、教育の経済分析
- ②段階、種類、動機の異なる教育がマクロ経済に及ぼす影響の理論分析
- ③①共著『メコン地域の経済ー観光・環境・教育ー』大学教育出版センター、2006 ②Economic Growth and the Riskiness of Investment in Firm-specific Skills, EUROPEAN ECONOMIC REVIEW, ELSEVIER SCIENCE BV, 2005, 49(4), 1033-1049.

TOPICS 今日的な課題にタイムリーに取り組む「コンテンツポラリー・スタディーズ」

「コンテンツポラリー・スタディーズ」とは、それぞれの学問領域における現代的課題にトライし、新たなフロンティアを切り拓く科目です。これまでの大学院教育になかった経済・産業の現場の動きを実践的に体感できるチャレンジ精神あふれる科目です。

「コンテンツポラリー・スタディーズ」の科目例

- 経済学のフロンティア
- ツーリズムと環境
- 社会包摂とレジリエントシステム
- 文化観光の現在と今後の課題
- 事業承継の理論と実践
- グローバル・ヒストリーとの対話